

食のリスクコミュニケーション・フォーラム2016（4回シリーズ）  
『消費者の食の安心につながるリスクミを議論する』第3回

## リスクミの失敗を考える

竹田 宜人

(独) 製品評価技術基盤機構化学物質管理センター  
/ 横浜国立大学環境情報研究院客員准教授

日時：2016年8月28日（日）13：00～17：50  
場所：東京大学農学部フードサイエンス棟 中島肇一郎記念ホール  
主催：NPO食の安全と安心を科学する会（SFSS）  
共催（協賛）：財団法人社会文化研究センター

## 本講演の目的

「リスクコミュニケーションの失敗」という表現はよく聞かれますが、どうなるか「失敗した」とみなされるのでしょうか？逆に、何を以て「成功」と考えればよいのでしょうか？

- ① リスクミが失敗したと思うのはどんな時？
- ② その時には、何を指標としていますか？

2014（平成26）年から2015（平成27年）に（独）科学技術振興機構（JST）科学コミュニケーションセンターと日本リスク研究学会は共同研究を行いました。本資料ではその成果の一部を使用しています。

## 課題

- ① リスクミが失敗したと思うのはどんな時？
- ② その時には、何を指標としていますか？
- ③ 他の分野のリスクミでも同じことが言えますか？

## リスクミは目標が重要です

- ① リスクミをなぜ行うのですか？
- ② リスクミの結果、どのような社会になって欲しいのですか？
- ③ その効果を測るための指標は何でしょうか？

### リスクミを分類してみましょう

(リスクコミュニケーション研究及び実践の現状に関する分野横断的調査報告書)

対象分野	実践	研究	合計
経済	4	6	10
健康	34	118	152
政治・行政	2	3	5
サイバー	7	1	8
環境・エネルギー	64	32	96
社会生活	7	11	18
戦争	4	0	4
自然災害	40	32	72
事故	97	35	132
政府機関	10	2	12
ネット調査	28	27	55

JST/日本リスク研究学会2015 竹田2015

### リスクミを分類してみましょう（形式分類指標）

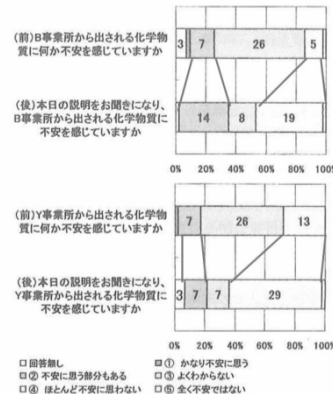
大分類	小分類
情報提供メディア媒介型 (一方向の情報提供)	商品のラベル表示
	マスメディア
	冊子等
	緊急速報
	動画
活動支援型 (リスク評価やリスクミの実施支援)	メール
	ウェブサイト
	評価・顕彰
	ネットワーク形成
	人材育成
意見収集・調査型	ツール提供
	活動支援
	コンテンツ作成
	事業者からの意見収集
	国民からの意見収集
意見交換対話型 (対等な意見交換)	フォーラム・シンポジウム
	少人数対話
	意見交換会
	相談(個人)
	教育訓練
情報提供直接対話型 (対面式での情報提供)	展示
	説明会(一般)
	講習研修
	説明会(事業目的)

開谷2014 JST/日本リスク研究学会2015 竹田2015

形式分類結果

分類指標	化学	食品	防災	原発等
情報提供メディア媒介型	1 2	2 2	3 0	1 4
活動支援型	1 2	6	1 8	2
意見収集調査型	2	8	1 0	1 1
意見交換対話型	4	8	1 1	4
情報提供直接対面型	3	6	9	3
合計	3 3	5 0	7 8	3 4

評価指標（効果測定）  
不安感前後で調査



松橋啓介, 岡崎康雄, 竹田直人, 中杉修身 (2002) 日本リスク学会第 15 回研究発表会講演論文集, Vol.15, Nov.22-23, 159-162

図1 事業所から出される化学物質に対する不安

リスクの効果測定の事例

- 工場から排出される化学物質への不安について、リスクコミュニケーションの前後で考えが変更になったか、尋ねた。
- 対象は関東にある二つの工場のリスクコミュニケーション参加者。B事業所では、「良くわからない」が減少し（26人から8人）、「ほとんど不安に思わない」が、5人から19人に増加
- Y事業所では、「よくわからない」が減少（26人から7人）、「ほとんど不安に思わない」が13人から29人に増加している。両工場とも、「かなり不安に思う」が消滅しており、この結果を持って、リスクコミュニケーションを行い、科学的に正しい知識を伝えることで、リスク認知が変容した、と結論付けていた。

しかし

- 「不安に思う部分もある」を選択した人は、B事業所では7人から14人へ倍増、Y事業所では、7人で変更はなかった。
- 最初から不安に感じていた人は、影響を受けていない？
- 知識を得たことで、自分で判断できるようになった→不安感の整理
- しかし、当時の報告ではあまり注目していない。
- その背景には、正しい情報を与え、理解が深まることで、市民は研究者などリスク情報を持つ者と同じ判断ができるようになる。できないのは、情報が欠如しているから、という仮説（欠如モデル）があった。  
→ リスクは効果があるのか？

松橋啓介, 岡崎康雄, 竹田直人, 中杉修身 (2002) 日本リスク学会第 15 回研究発表会講演論文集, Vol.15, Nov.22-23, 159-162

PRTR情報を用いた環境リスクのコミュニケーション手法の検討  
村山（2006）

3.4 実験的試みの成果と課題

3.4.1 調査に対する回答者の属性

集会へ参加し、質問紙調査に回答した人数は、工場A、Bそれぞれに対して、17、27である。回答者の特性としては、工場Aでは民間企業の勤務者が6割弱、その他無職、教員、学生が3割程度である。また、7割程度の回答者が市内に20年以上居住している。一方、工場Bにおける回答者は、民間企業の勤務者が3割強で、無職や学生の割合が4割程度を占めていた。また、市内の居住年数が20年以上の回答者が3割弱いたものの、市外に居住しているという回答が45%程度みられた。

評価指標

効果的か、情報が得られたか、安全か、  
リスクのステージごとに評価を実施。

■ とても効果的 ■ やや効果的 ■ どちらとも  
□ あまり効果なし □ ほとんど効果なし □ 無回答

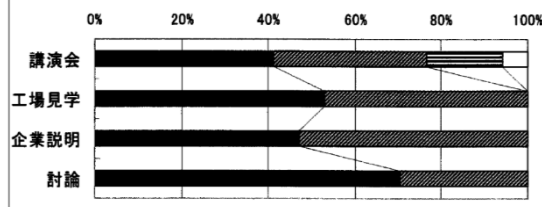
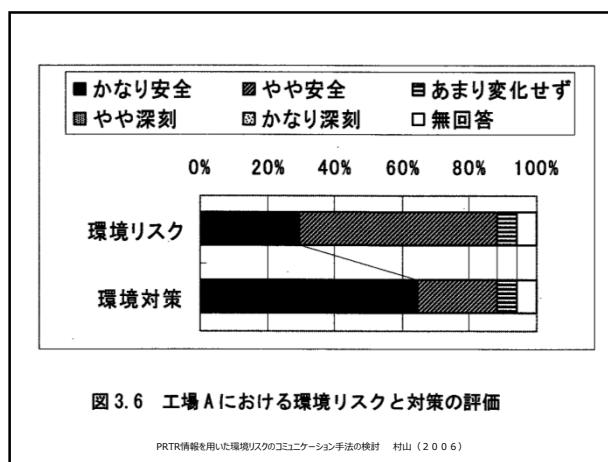
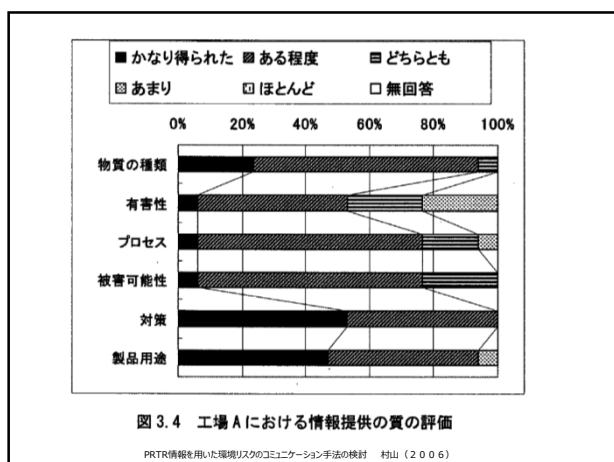


図3.2 工場Aへの参加者における各集会の評価

PRTR情報を用いた環境リスクのコミュニケーション手法の検討 村山（2006）



### リスコミの評価軸 (試案)

(1) 意見交換対話型 (提供側の意図が弱い)

- ① 情報を受ける側が評価
  - ・ 十分な説明が得られたか?【面白かった】
  - ・ 効果があったか?【聞いてよかった、行動してみようと思う】
  - ・ 情報(知識)は得られたか(質、量)?【良かった、満足した】
  - ・ 安全、安心、不安感に変化はあったか?【安心した、信頼感がアップした】
- ※ プロセス評価(会社概要説明→工場見学→意見交換)
- ② 情報を提供する側が評価
  - ・ 費用対効果はどうか?【予算と参加人数と効果】
  - ・ 参加者の知識やリテラシーは向上したか?【試験?】
  - ・ 参加者からの意見を聞くことができたか?
  - ・ 参加者の望ましい行動につながったか?【フォローアップ】
- ③ 地域社会が評価
  - ・ 地域社会へのアウトカム、インパクトがあったか?
    - 地域の環境質の向上
    - 地域住民の幸福度の向上
    - 地域の持続的発展に資することができたか?

### リスコミの評価軸 (試案)

(2) 情報提供直接対面型 (提供側の意図が強い)

- ① 情報を受ける側が評価
  - ・ 十分な説明が得られたか? (他に情報があるのでは? 懸念 = 失敗)
  - ・ 情報(質、量)が得られたか? (情報が伝わらなかった = 失敗)
  - ・ 安全、安心、不安感に変化はあったか?
  - ・ 説明に納得したか?
- ② 情報を提供する側が評価
  - ・ 納得していただいたか? (納得させられなかった = 失敗?)
  - ・ 説得できたか? (説得できなかった = 失敗?)
  - ・ 紛糾しなかったか? (議論にならなかった = 失敗?)
  - ・ 行動につながったか? (行動してくれない = 失敗?)
- ③ 地域社会が評価
  - ・ 地域社会へのアウトカム、インパクトがあったか?
    - 地域の環境質の向上
    - 地域住民の幸福度の向上 (コミュニティの信頼関係の構築)

### 柏市の事例

- ・ 福島第一原発事故で放出された放射性物質のホットスポット→農産物の汚染→風評被害?
- ・ 柏市の市民(消費者)、農業者、飲食業などの人たちのからなるグループが自主基準を設定。
  - ※「安全・安心の柏産柏消」円卓会議
- ・ 皆さんはどう考えますか?
  - ※「みんなて決めた安心のかたち」 亜紀書房 筑波大 五十嵐泰正先生

### これから大事なこと

- ① リスコミの評価をしましょう。
- ② 住民、市民(情報を受ける側)がリスク管理に参加できる仕組みを考えましょう。
- ③ ①と②を踏まえ、リスク評価、リスク管理とも見直しの機会(PDCA)を考えましょう。
- ④ リスコミは社会でものごとを決める(意思決定)のプロセスと考えています。
 

みなさんはどうお考えになりますか?